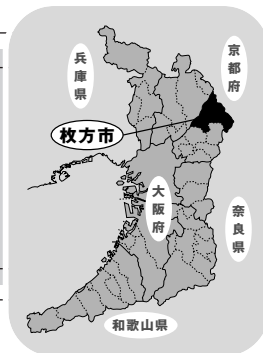


わたしのまちのPR

枚方市編



枚方市は、大阪府の北東部、淀川左岸に位置しており、北は京都府八幡市、東は京都府京田辺市、奈良県生駒市、南は寝屋川市、交野市、西は淀川を挟んで高槻市、島本町と接しています。東部地域は、生駒山地から男山丘陵に伸びる丘陵・山地地形をなし、西部地域は海拔10m前後の沖積低地で、中央の大部分は海拔20～50mの枚方台地が占めています。

市内にはJR学研都市線や京阪本線、京阪交野線が走り、また、国道1号や170号などの主要幹線が通るなど交通の便に恵まれています。平成21年度末には第二京阪道路の全線開通が予定されており、ますます便利となる交通環境を背景に更なる発展が期待されています。

この枚方市の魅力や特色について、企画政策課長の小川さんにお話をお伺いしてきました。



本日はどうぞよろしくお祈いします。

早速ですが、枚方市の歴史を教えてください。

よろしくお祈いします。

本市は、古くから大阪と京都を結ぶ交通の要衝として栄え、江戸時代には、宿場町として、また、淀川舟運の中継港として賑わいをみせました。明治43年に淀川左岸に京阪電車が開通すると、郊外型の住宅地として発展してきました。

昭和22年8月1日に市制施行し、昭和30年に津田町と合併し現在の枚方市がかたちづけられました。その後も、当時「東洋一のマンモス団地」といわれた香里団地をはじめとした住宅団地や工業団地の建設が進み、平成7年の国勢調査では、人口40万人を

越え、府内有数の都市へと飛躍的に成長し、平成13年には特例市に移行しました。また、平成19年の市制施行60周年を記念して、市の花「菊」に加えて「桜」を追加制定するなど、住みよい、魅力あるまちづくりを進めています。

牧野の桜



枚方市の歴史を感じられるスポットを教えてください。

本市の歴史は、朝鮮半島との関わり無くしては語れません。3世紀から7世紀にかけて朝鮮半島で栄えた百済と日本の交流は深く、王族の末裔や多くの知識人が日本に渡り暮らしていました。それは、本市にとっても例外ではなく、市内には古代朝鮮半島との交流を示す多くの歴史遺産が残っています。

4世紀末に百済から渡来した王仁博士は、「論語」10巻と「千字文」1巻をもたらしたとされ、古代から学問の祖として崇拜されてきました。江戸時代に儒学者の並河誠所が、枚方の地にある「オニの墓」と呼ばれる自然石を王仁の墓とし、以後、王仁の墓所とされるようになりました。

平成11年には、韓国の金鍾泌首相が訪れたことで、「伝王仁墓」は日韓交流の拠点の一つとして位置づけられ、日韓両国の寄付で高さ約5メートルの百済門が完成しました。

こうした縁から、王仁博士の生誕の地とされる韓国霊岩郡とは市民レベルで交流を深めてきたことか

伝王仁墓・百濟門



ら、平成20年3月に友好都市提携を結びました。

また、百濟寺跡も当時の交流を物語る史跡です。749年に、百濟の王族の子孫といわれる百濟王氏くだらのくにきしうじがこの枚方の地に移り住みました。その氏寺が百濟寺です。当時の陸奥の国司であった百濟王敬福きょうふくが、東大寺で大仏を造立中の聖武天皇に金を献上した功績から、宮内卿と河内守となり、寺を建てたとされています。残念ながら、寺は11～12世紀に焼失し、今では礎石を残すのみとなっていますが、昭和27年に大阪城とともに国の特別史跡に指定されています。

百濟寺跡



古くから異文化交流が盛んだったんですね。
また、国内の交流拠点としても栄えたそうですね。

はい。先程もお話ししましたが、ここ枚方は、東海道の宿場町「枚方宿」として大いに栄え、今でも当時を偲ばせる建物が現存しています。

淀川を上り下りする三十石船の中継港として、大小様々な船が行き交い、「餅くらわんか、酒くらわんか」などと乱暴な口調で酒や食べ物を売る「くらわんか舟」が名物となりました。その賑やかな様子は、十返舎一九の「東海道中膝栗毛」にも描かれていま

市立枚方宿鍵屋資料館



くらわんこ

す。

こうした当時の雰囲気
を今日に伝えているのが、「枚方宿鍵屋資料館」です。淀川三十石船唄にも唄われた「鍵屋」は、天正年間（1573～1592年）に創業したと伝えら

れ、当時は淀川沿いを代表する船宿でした。江戸時代の様式を色濃く残すこの鍵屋主屋は、昭和3年に建築された料理旅館である別棟と合わせて、平成13年に、枚方宿地区の魅力あるまちづくりの拠点として、「市立枚方宿鍵屋資料館」に生まれ変わりました。

館内にある6つの展示コーナーでは、音声や映像、模型などで枚方宿の歴史を解説し、実物大のくらわんか船や発掘調査で出土した「くらわんか茶碗」などを展示しています。また、ここには、くらわんか船の船頭をモチーフにした犬の「くらわんこ」が住んでいますので、是非、一度お立ち寄りください。

枚方宿の当時の賑わいを再生しようと、住民と一体となって取り組んでいるとお聞きしましたが、このことについて教えていただけますか。

旧枚方宿界限には、町家風のおしゃれなカフェ・ダイニングにアットホームな雰囲気の陶器店が並んでいます。これは、町屋を貸したい人と借りたい人を仲介する「枚方宿町家情報バンク」によって実現したものです。

この町家情報バンクを運営しているのが、枚方宿地区一体の風情を守り、かつてのような活力のある

まちにしようと、平成12年に発足した「枚方宿地区まちづくり協議会」です。まちづくり協議会は、住民と市が協力して地区の歴史を大切にしながら、生活環境として住みやすく、商業にも一層の賑わいを創出していくために、住民が中心となって設立されたもので、活力と魅力あるまちづくりに向けて様々な活動に取り組んでいます。

市としてもこうした取組を後押しするために、古い町家の修復とともに、新しい住宅についても、外観に伝統的な建築様式を取り入れた新築、増・改築への助成を行うなど歴史的な景観づくりに努めています。

枚方宿街道



素敵な街並みですね。

まちづくり協議会では、その他にも様々な取組を行っています。この枚方宿が東海道56番目の宿場町であったことにちなんだ「枚方宿くらわんか五六市」が開催されており、地元の商店や若手作家による雑貨やアクセサリなど手作り品を中心とした約70の露店が立ち並ぶなど、大盛況となっています。

また、毎年多くの人で賑わいを見せるのが、「枚方宿街道菊花祭」です。市内の小中学校で育ててもらった菊を、街道沿いの家々の軒下に展示しています。街道沿いの店舗でもイベントに合わせて様々な催しを行っています。この街道菊花祭のメインイベントを飾るのが、「枚方宿ジャズストリート」です。お寺の境内や公園など地区内の8箇所と同時にジャズ演奏会が開催されます。菊の香りが薫る街道とジャズの音色が好評です。



枚方宿
くらわんか五六市



枚方宿
ジャズストリート

多くの人で賑わっていますね。
枚方の「菊」といえば、「菊人形」が有名ですね。

かつて枚方の代名詞であった「ひらかた大菊人形展」が、平成17年に惜しまれつつも96年の歴史に幕を下ろしました。しかし、この伝統的文化を何とかして後世に残していきたいという思いから、菊人形づくりのボランティアによる「ひらかた市民菊人形の会」が結成されました。平成18年からは、人形師の指導のもと、市民が自ら手づくりで菊人形を制作しています。

この市民菊人形が展示されるのが、毎年10月から11月にかけて開催される「ひらかた菊フェスティバル」です。市内の菊愛好家たちが大切に育てた菊を展示する「菊花展」と、先ほどお話しました「街道菊花祭」などの菊にまつわるイベントと併せて開催され、市内各所を色とりどりの菊花が彩ります。

これらのイベントはすべて市民主体で実施されており、市民によって支えられている枚方の菊文化そのものを発信しています。

市民が主体となって、伝統・文化を後世に大切に伝えているのですね。



市民菊人形



菊花展

お祭りといえば、「天の川七夕フェスタ」も有名ですよね。

そうですね。ここ枚方は、日本の七夕伝説発祥の地です。平安時代、枚方・交野を流れる天野川の川底が白く光って見えることから、この地を天上の天の川になぞらえて多くの歌が詠まれ、伊勢物語には在原業平がこの地を訪れた際に詠んだ歌が収められています。また、市内の観音山公園には牽牛に例えられる巨石「牽牛石」があり、天野川に架かる橋の名にも「かささぎ橋（雨の七夕に鶴が翼を広げて橋渡しをしたことから）」や「天津橋（天の川に架かる橋）」があるなど、七夕にまつわる名が多く見られます。

こうした七夕伝説を伝えようと、毎年、市民が中心となって七夕まつりを開催し、平成16年からは「天の川七夕フェスタ」として枚方フェスティバル協議会に受け継がれ、ジャンボ笹飾りやペットボトルオブジェなど市民主体で毎年趣向を凝らしたイベントを行っており、今では夏の風物詩として定着しています。

本市としても、市役所付近には、牽牛と織姫をイ

天の川七夕フェスタ



メージしたモニュメントや天の川のイルミネーションを設置するなど、市民との連携を大切にしながら、イベントを盛り上げています。

市民と行政との連携が、市民活動をさらに活発なものにしているのですね。

最後になりますが、今後のまちづくりについて教えていただけますか。

急速な少子高齢化や地球温暖化等の環境問題、福祉・医療制度の改革など、本市を取り巻く社会状況は急激に変化しています。こうした中であって、多くの人に枚方を「住みたい、住み続けたいまち」と感じてもらうために、枚方の特色を生かした魅力と活力あるまちづくりをめざして、現在、「第4次枚方市総合計画」の改定に向けた取り組みを進めているところです。

また、昨年10月からは、道路や公園など公共の場所での歩きタバコを市内全域で禁止し、12月からは、人通りの多い枚方市駅・樟葉駅周辺区域では立ち止まった喫煙や火のついたタバコを持つことも禁止するなど、快適に暮らせるまちづくりを進めています。

幅広い世代、多様な価値観を持つ市民の定住意向を確保していくためには、バランスよく都市機能を高めるとともに、「潤い」「憩い」「香り」といった感性に響く魅力も大切だと思います。

ここ枚方は、秋には菊人形に代表される「菊」が華やぎ、春には「桜」が市内のあちこちを鮮やかに彩るなど、多くの花が身近にあふれています。また、戦後いち早く市民合唱団が誕生し、本格的な演奏活動を行う一方、病院や施設で慰問演奏をしているなど、音楽にゆかりの深い都市でもあります。

こうした枚方の魅力や特色をさらに発展させ、四季を彩る「花」が似合い、「音楽」に象徴される文化芸術を身近に楽しむことができる、そんな魅力をもった「花と音楽にあふれたまち、枚方」を市民の皆さんと一緒につくっていきたくと思っています。

「花と音楽にあふれたまち」の実現に向けて、一層躍進されることを期待しております。

本日は、お忙しい中、ありがとうございました。